

絲櫻春蝶綺縁七

於
190
7

213
190
7



於
190
7

徐櫻春蝶奇縁卷之七

東都

曲亭馬琴編述

第十段

翻蝶丸單身賊寨に到る

小糸見再生虎穴を出



半晌黒平くろへい山魅やまま伍平ごへい太たと浪なみ激げき。まづ綱五郎つなごろうを結果けつぐわと。日本にっぽんの怨うらみを復たがし。
 ちして後のちは伍平ごへい太たを怒おこりて首級くびぎと扇谷あまがも殿とのみへ献けんり。律りつの便宜べんぎを以もつて。又または
 陣羽織じんうゐを進すすじり。やも隨まる賞賚しょうさいを得えて。社やしろ役やく亦または長ながとる。ふ富とみと威いと
 両ふたも。われもあひのあつ。穴あなと肚裏はら小較せう計けい。謀計ぼうけい大おほく就つて。立たて。や
 綱五郎つなごろうが。心こころ塞ふさへ。ま。と。し。小藤ことうを拍うて。あ。び。伍平ごへい太た。耳みみ終はて。小賊せうせき亦または
 夜入よひい山魅やまま。今いま釋はなゆ。せ。と。軍師ぐんし。以もつて。進すす。出で。位ゐ。薩さつ。つ。ん。被か。翻蝶丸ひんてつわん。綱五郎つなごろう。
 親衛ちんゑ。力ちからあ。り。て。義経よしかげ。が。剛たけな。姚やう。と。兼かね。と。り。れ。お。り。ふ。あ。の。妙たえま。死し。舞ま。者もの。と。作つく。

系譜春蝶奇縁卷之七

單月であるともその車小は教えとせ。月方小病負多のべ。小敵とて蔑みるべ。
 夫之將を驕く。これを教へば必勝と。二支軍書先生の講終を。彼も。これ。が。
 這奴もよ。あるとも。仇。く。く。ひ。を。動。さ。で。態。敷。は。官。待。る。べ。実。不。あ。そ。れ。て。さ。う。
 と。と。さ。の。由。断。を。窺。ひ。心。懸。大。人。と。暗。号。して。孟。を。擲。り。その。と。伏。兵。一。
 度。も。起。て。走。く。と。生。拘。ら。る。囊。の。中。多。物。を。さ。る。よ。易。ゆ。べ。と。鏡。示。其。小。賊。小。の。
 い。も。さ。と。伍。平。太。ら。く。感。佩。して。盈。々。を。ろ。笑。片。向。汝。亦。少。う。と。さ。三。び。
 草。廬。と。ん。つ。と。の。孔。明。を。る。に。ぞ。命。禮。で。黒。平。が。計。策。は。た。か。全。た。り。綱。
 五。郎。と。生。拘。り。し。ま。う。祝。言。の。酒。饌。せ。ん。腹。を。肥。て。脊。力。を。増。し。接。君。幸。多。る。働。か。せ。よ。
 と。い。ふ。衆。皆。さ。う。り。て。酒。は。好。み。舞。は。れ。り。樽。蓋。も。腰。も。ろ。ち。振。車。坐。居。多。れ。
 つ。彼。張。樊。が。當。飲。は。獻。つ。剛。つ。剛。つ。泥。の。如。く。不。醉。臥。さ。る。昏。昏。も。羽。之。の。為。る。
 べ。さ。う。程。は。綱。五。郎。は。伍。平。太。が。懺。悔。の。語。さ。う。り。て。さ。ひ。く。も。人。は。物。を。い。ひ。

られて一歩もぬ依者るべ。既に彼と相立を切取りておくべ。う。汝。諸。ひ。り。の。年。未。
 減。む。ある。仕。役。亦。と。芝。崎。道。場。へ。巨。聚。て。件。の。録。を。考。へ。し。れ。ば。衆。皆。首。ゆ。て。肩。相。を。
 よ。せ。彼。伍。平。太。は。支。黨。の。小。賊。あ。り。と。あ。る。素。より。義。は。信。を。さ。る。の。ゆ。へ。も。
 わ。ら。ざる。小。大。哥。と。慕。ふ。とい。ふ。初。一。加。補。故。り。して。今。猛。小。遠。く。去。ん。と。い。ふ。も。又。
 こ。ろ。ゆ。か。と。あ。い。必。大。哥。を。彼。へ。送。り。よ。と。怒。り。と。さ。ふ。よ。こ。も。慢。は。彼。如。へ。
 赴。き。も。生。て。再。び。つ。つ。が。ひ。ん。を。さ。る。べ。と。と。衣。巻。て。禁。み。あ。ぞ。綱。五。郎。荒。赤。と。
 笑。み。い。ま。も。又。禿。の。謀。と。い。た。め。う。こ。と。を。考。れ。り。然。う。と。も。振。れ。て。ゆ。ら。ゆ。ら。
 伍。平。太。亦。は。侮。ら。ま。え。その。極。威。と。た。た。い。け。り。して。里。人。亦。は。夜。と。あ。ま。く。睡。り。
 かつ。い。づ。こ。う。既。に。決。せ。り。ぞ。孟。の。諫。言。も。あ。る。と。い。ひ。さ。ま。る。氣。色。は。い。れ。ん。下。に。
 幡。下。と。い。ふ。仕。役。二。人。の。ろ。共。は。班。と。出。大。哥。が。わ。さ。さ。も。く。ん。と。い。ひ。決。め。あ。ら。れ。し。
 防。ぐ。准。儀。併。肝。要。あ。ら。ん。今。推。量。さ。る。伍。平。太。が。二。隊。に。三。十。人。に。ふ。さ。さ。し。ま。る。

又此方も。四十人の社位を擇り。こぼれぬて赴きもの。といひせも果ぞ綱五郎。及左右より。掉て管領より免許る。又野の里人を籍催し。伍平太を。戦ふて切る。切身の罪といふ。て腹れん。も又うけ引かじ。虎穴に入らざれば。虎を後捕はさるふ。しし。且單身中。彼れへ赴き。竟る命を。門さとの。心懸。と組で死ん。残る鳥合拘黨の小輩。伍平太。怒りて。遂に。も。誰教あり。里。主め。家よ。父母。ある。綱五郎。身を捨て。里人の。為。旅客の。為。は。盡害を。除る。庶幾と。さう。運場。る。ば。且。この。一生の。別。る。下。酒。盃。を。さ。う。は。は。ん。と。く。とい。を。が。と。あ。で。巨。六。幡。丁。の。その。勇敢。小。感。然。て。衆。人。と。面。を。め。り。竟。よ。ぬ。さ。び。争ひ。練。ど。酒。肴。を。安。排。と。合。さ。う。り。酌。り。し。その。曠。昏。は。群。つ。て。お。の。く。宿。所。へ。ゆ。り。り。却。説。綱。五。郎。の。早。岡。十。女。湯。ホ。は。件。の。終。志。し。る。が。陥。て。禁。め。ら。れ。た。の。や。と。い。は。れ。る。その。夜。不。町。へ。つ。つ。て。狭。と。あ。ら。は。な。る。若。き。で。賴。は。刀。乃。

寐刀をあて。て。徐。よ。その。用。意。ら。は。げ。さ。う。ら。卧。て。物。お。か。れ。た。床。さ。か。り。且。ば。園。宅。の。の。へ。終。て。去。り。だ。次。の。目。己。の。比。及。あ。ま。や。く。起。て。早。飯。を。さ。う。生。平。の。母。宿。所。を。去。り。途。中。二。瓢。の。酒。を。購。ひ。又。八。の。笛。は。括。著。て。め。ろ。ろ。肩。は。被。悠。と。して。あ。ひ。ら。圓。塚。山。へ。赴。き。ゆ。り。後。よ。心。懸。か。な。候。の。小。賊。目。綱。五。郎。が。あ。ら。と。ん。て。ま。ろ。め。り。て。報。知。し。伍。平。太。獲。て。小。賊。十。八。人。を。捕。獲。ふ。く。と。く。翻。蝶。丸。を。迎。え。る。その。光。景。喇叭。噴。哨。牧。笛。を。吹。る。じ。洞。羅。大。鼓。を。ら。し。腰。輿。を。担。ぎ。旗。傘。陣。を。ま。る。ま。る。と。同。り。り。り。の。心。懸。く。件。の。腰。輿。を。菜。の。上。は。担。居。て。恭。々。顔。を。著。め。大。田。の。大。哥。へ。受。え。あ。げ。さ。う。け。や。も。何。風。草。を。塵。毛。一。番。く。中。光。睡。さ。う。り。て。伍。平。太。僕。ホ。を。遣。て。迎。え。んと。さ。う。腰。輿。よ。め。せ。れ。ゆ。め。せ。れ。ゆ。へ。と。異。口。同。音。に。速。下。る。綱。五。郎。信。と。ん。て。大。勢。に。音。響。を。い。は。す。は。ホ。を。遣。り。さ。う。い。れ。總。角。る。比。習。ふ。も。跡。は。あ。ら。と。あ。ら。



圓塚の小賊亦
腰興をりて
翻踏九々
迎ふ



つる五郎

善人と共の居て悪人とあそぶのへは則 善人なり。悪人と共の居て悪人と
あそぶのへは則 悪人なり。汝亦既に先非を悔て遠く去んとすといふもの管領
より舊悪を免されたるよあふれば盗賊の名削れ且つわれは潔白の使者
汝亦か盗りて貯る腰輿ふたて又母より受ける刃を搦えや先へ退くこと
より汝は平太は若きもよ。この樹木多しといふも。末生ゆて高くた。こが今
少よゆらばんよといひつゝ裳引あびて。桐の下駄を穿あが。疾と飛がどくれば
小賊亦ハ星果て半ハ先づして伍平太は若きも半ハ綱五郎が背は跟てい
つゝは腰輿と昇吹鼓の音を停て食後下を喘げけり。あやうく伍平太ハ五
七人の小賊をおて門外へ出迎。恭諾とたがひて速に貴臨せしむ。然びこれよんと
き。誘ひこへと恭々後堂へを誘ひぬ。當下綱五郎ハ刃を回し。彼此をうらふ
丸木を床に石を壁に。綱代天井は棟裏包て香蒲を編て席とをこれと如く

翠簾かけしにして。綱度きとも雅らあり。又俗らりのありて。相馬内裡の二の
町ゆれろ左ある。廊下ハ布の幔幕を引こ。内々人あまを籠りけり。い
ま。とちがし。三つれを奪ん為ふことと。大に構へあが。うち入るもの。此も騷
か。と肩をる。瓢をちろろ。さゆと坐して伍平太より対ひ齎する。酒の
和主へ餞別する。既まのふひつて。うや心海の美味を陳後葛飾乃
青菰練馬の薙菴芝浦の雜魚。鎌倉の松魚。りて。郷食るとも。櫛とこる
入。大受ど。初。仕。装。を。その。つて。食。速。よ。か。太。へ。里。積。盡。如。を。送。ん。ど。と。官。不
い。と。せ。へ。伍。平。太。堂。ら。ち。の。と。大。奇。何。と。て。性。急。る。吾。們。既。は。初。志。を。及
これ。共。よ。は。潔。白。の。人。ら。と。ど。や。る。ど。よ。盗。り。の。歎。り。て。大。歌。の。口。腹。を。搦。と。へ。し
假。蘇。民。の。首。途。と。送。別。の。酒。ハ。酌。る。り。つ。物。を。嫌。ひ。多。く。贈。ら。れ。る。瓢。を
ひ。と。ん。ど。と。獲。て。小。賊。亦。ハ。盃。盤。を。う。り。ま。じ。酒。を。温。着。を。添。壽。綱。を。送。

山歌を唄ひ、表は自奥を催せ、綱五郎は此も擬装せど巨盃を引受て、續
 してぬふに及傾け、山魅は因と投て長身ある腰刀をふらして是と引抜た
 野猪の肉の焼くると刀尖を貫たつ。看せんをさし出せば、伍平太酒を飲む奥で
 この威勢は春且下く、顔色土のどくふるりて、時刻は直と暗号はるせど、黒平の
 幕の陰より、倅のやうと胸窺ていと胸くくも、其処へ出さつて身なるは、
 ちひらねて潜すふ、首出てさし振くと、伍平太の尻目より、さし振ると、
 ちて黙然と、時は西の方ふあうて、女子の哭を頻りて、いとも哀しく、
 へ綱五郎早を側と、山魅を人かして、渠いとも何ぞと問へ、伍平太は、
 迷惑忽ち地色は見え、現るるのり、其つやく、さし振ると、その言葉
 しまし終ると、綱五郎は衝と居下りて、伍平太を領上を、鷲鳥の如く、
 ちねぬと、山鬼変化ると、やあ、ん、誘のり、共、あ、れ、ん、業内せ、といひつ、
 右の刀を引提て、卧る牛の起るが如く、足踏そつて、さあ、声なる、
 と赴き、その收勢、僅に二と、小兎を引提る、伍平太の質、
 ちて、項も伸、鳩の豆を、又八九十の、
 ちて、腰を折、膝と、
 この為倅は小賊ホハ吐、
 吐き、果てせん、
 兵ホハ、
 五郎へ、
 倅、
 拵、
 拵、
 地の上五六尺、

右の刀を引提て、卧る牛の起るが如く、足踏そつて、さあ、声なる、
 と赴き、その收勢、僅に二と、小兎を引提る、伍平太の質、
 ちて、項も伸、鳩の豆を、又八九十の、
 ちて、腰を折、膝と、
 この為倅は小賊ホハ吐、
 吐き、果てせん、
 兵ホハ、
 五郎へ、
 倅、
 拵、
 拵、
 地の上五六尺、



守えてや救まひん神佛も益良雄の名に懸て下り受たり。わが夫のよう
 は、素よりごともう。この身も餘り慈悲こそ。ごめんが良人の故ありて海世を
 陪ぶ武士の浪人。今、狹七と名を借り。この名も有海邊にうけてや。一言毎に息を
 つた。昔とて、細五郎の左手を伸して女子の教をせよと。一と向て狹七が
 妻とふられが原末。そのうち小糸こそ。このび又細五郎を。つくとて沈吟じ
 そふ。ししてつらか良人。ごめんが名もなれけん。舞へては。あつては。あつては。
 と。うちら。う。笑。と。縁故を。あ。ごめん。あ。ごめん。あ。ごめん。あ。ごめん。あ。ごめん。あ。ごめん。
 縁由は。後。ふ。り。ん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。
 慰。言。ハ。小糸。が。為。良。業。あ。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。
 悪。あ。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。
 胸。を。抱。お。ろ。せ。細五郎。ハ。又。伍平。太。が。額。を。背。子。は。磯。と。搦。著。目。今。小糸。が。背。る。と。

ゆく小良人狹七のいね。比。この麓。で。追。捕。の。武。士。と。う。あ。つ。て。小糸。ハ。責。を
 生。拘。ら。れ。て。狹。七。が。人。と。あ。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。
 件。の。追。兵。ハ。何。れ。の。ぞ。洋。子。と。名。を。借り。し。と。と。離。ら。れ。て。伍。平。太。ハ。子。息。を。岡。橋
 親。方。些。放。り。息。絶。へ。て。し。と。あ。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。
 ろ。ん。ご。め。の。れ。い。う。の。も。あ。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。
 奪。め。て。あ。つ。つ。ご。下。の。外。ハ。一。切。あ。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。
 谷。家。の。兵。士。が。この。山。を。盗。賊。の。住。所。と。あ。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。
 小糸。を。奪。れ。跡。ま。じ。し。い。ら。う。な。ご。め。の。れ。い。う。の。も。あ。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。
 さ。も。止。る。ん。ご。め。の。れ。い。う。の。も。あ。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。
 ろ。後。日。を。暮。し。や。小。賊。と。も。ら。う。と。あ。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。
 ら。れ。ば。お。れ。の。い。う。の。も。あ。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。ごめん。

放てよの寨を及せし。こゝろ又外の賊がこの山を握るらん。さうぞや。とのぞきせ。
 づらふうとせしむる火を放ぐ。立地は伍平太を槍殺さん。さうぞや。とのぞきせ。
 小賊ホノ山魁を既に槍殺せし。律を背負ひ。さうぞや。とのぞきせ。火を放ぐ。
 住所を焼く。さうぞや。の立地。伍平太の声を極し。さうぞや。巢を焼く。
 失つとも。今小指。のほ。只。あつ。も。純。珠。丸。の。命。さう。旨。を。信。ひ。て。の。
 どのを。つ。里。を。放。口。里。を。救。へ。と。叫。ぶ。ぞ。小。賊。ホ。の。山。魁。も。さ。う。ぞ。や。の。
 衣。裳。金。銭。大。く。の。腰。に。著。遂。は。寨。を。焼。く。る。お。お。秋。の。末。ら。ん。この。目。山。
 風。烈。く。て。四。五。十。間。を。建。つ。終。る。虎。狼。の。栖。と。瞬間。は。照。射。の。灰。と。さ。り。お。
 ろ。ろ。移。り。又。獨。立。郎。の。伍。平。太。を。挟。み。左。の。小。糸。を。扶。掖。し。て。林。の。く。く。六。七。町。
 退。る。火。の。光。が。遠。く。見。果。て。徐。に。麓。へ。下。る。後。は。巨。六。幡。丁。ホ。の。山。魁。も。棒。を。つ。れ。
 立。る。杜。校。三。十。人。を。お。て。待。て。り。獨。立。郎。が。あ。つ。と。見。て。忙。し。く。出。近。へ。大。哥。の。救。を。

得る小糸。これ。あつ。と。見。て。さ。う。ぞ。や。の。目。山。魁。も。さ。う。ぞ。や。の。
 ホ。の。山。魁。も。さ。う。ぞ。や。の。目。山。魁。も。さ。う。ぞ。や。の。
 火。の。光。が。遠。く。見。果。て。徐。に。麓。へ。下。る。後。は。巨。六。幡。丁。ホ。の。山。魁。も。棒。を。つ。れ。
 立。る。杜。校。三。十。人。を。お。て。待。て。り。獨。立。郎。が。あ。つ。と。見。て。忙。し。く。出。近。へ。大。哥。の。救。を。

あつたつとめて十兵衛へ小糸を連れてうら兵次現其知事も入ませし片あつ
あつたつとめて。さうなすまませと拒みあつ。綱五郎と推るど。さうなすまませと
笑ふ。女子よあつ脅力か股を委まよ。隨はせぬ。さうなすまませと拒みあつ。綱五郎と推るど。さうなすまませと
辣め。徳ぬ檀那符。さうなすまませと拒みあつ。綱五郎と推るど。さうなすまませと
来ませ。思按の外。物怪の徴。十兵衛か。後をさうなすまませと拒みあつ。綱五郎と推るど。さうなすまませと
よ。うら兵衛。仇は姉ね。綱五郎は。高うの。浮麻鳥。荒磯の。松と。漆。あね。外の。意
と。あつたつとめて。さうなすまませと拒みあつ。綱五郎と推るど。さうなすまませと
塵を。捻。さうなすまませと拒みあつ。綱五郎と推るど。さうなすまませと
あつたつとめて。さうなすまませと拒みあつ。綱五郎と推るど。さうなすまませと
あつたつとめて。さうなすまませと拒みあつ。綱五郎と推るど。さうなすまませと
あつたつとめて。さうなすまませと拒みあつ。綱五郎と推るど。さうなすまませと

第十一段

阿總不説て綱五郎婚姻を促さ

黒平は遭て伍平太再高議と

黒平が伎倆悉齟齬して三十餘人の山賊亦綱五郎一人は折と判伍平太と擒よ
せられ小糸と有れ山寨を燒き合四圍ハ滿りし。六半响ハこの形勢小且
呆且固て。ひびひと。大夏の。倒んと。一木の。柱。煙を。潜り。火を。脱。辛。忙。小馬。栗。黒平
と。あつたつとめて。さうなすまませと拒みあつ。綱五郎と推るど。さうなすまませと
綱五郎が。事。の。秘。を。も。伍平。太。が。往。方。を。向。ハ。阿
田河原の。去。外。を。黒平。追。意



岩藤
 尾乃有門
 夜伍平太
 逐



山魅とひとふる。ぬまび商賚きうえり。然を復と下りもあつらん。われい
 続け。といひつて。あのがふへふた甲夜闇。喘と追蒐つ。その夜玄中の比及ふ
 幸くして牛嶋。あて伍平太ホ又環会り。この山魅ハ龍標丸が友とりの壯
 伎ホ又追放され。穴を失ふ。狐の玉。巢を破れしる。素又飢てぬらん。とさるふ
 寨ハ焼まろき。んとさる。小守へた宿る。暗き処に立在つ。こちで也後ひる
 小賊ホと鼻つた合。いふせきと後さお。半晌ハ微ハとおそ。其知るは知りと
 索まろ。透して送ま呼びひ。ちう近くる。いふ。黒平ハ腹し。山魅ホを
 罵れば伍平太ハ尻を搔き。半晌の腹さる。その勝も肩も時の運る。つら死
 折れぬ。ちよふ。つら死る。その後の秋。甲田人送る。阿隅田川を渡と
 と死。あひもつ。む。扇合る。兵士ホ又撞見て散く。小打る。され。二十餘人ハ往
 かせ。あ。む。残る。此彼。只七人。彼兵士の大將ハ管領の家。隸。岩藤。尾。右。衛。門。

とふののるつとそ。かれが今者。虚と。いふ。あ。甚危。い。つらせん。と
 密着。黒平。冷笑。い。命。本。降。い。刺。さ。い。客。あ。い。と。似。び。し。あ。る。あ
 時ハ。空の。臺。と。抄。上。へ。あ。つ。の。も。今。更。物。と。あ。ん。や。累。る。死。ハ。細。五。郎。這。奴
 と。結。果。る。へ。扇。谷。の。岩。藤。承。眼。室。外。へ。捕。も。殺。勝。ん。と。い。と。易。い
 といふ。の。秘。計。あり。彼。細。五。郎。が。あ。つ。く。あ。い。の。日。狭。七。を。援。か。と。円。塚
 心。の。母。と。あ。て。破。作。し。る。追。捕。の。武。士。を。管。領。より。捕。れ。し。る。兵。士。を。い。さ。ふ
 め。然。ん。あ。の。夜。は。紛。ま。で。這。奴。が。背。門。より。乱。入。り。管。領。の。仰。よ。り。い。と
 追。捕。の。兵。士。と。殺。し。る。罪。人。を。捕。捕。と。叫。び。つ。あ。後。より。闘。を。極。し。い。ふ。も
 細。五。郎。こ。う。後。ま。で。働。死。す。怯。む。あ。死。不。て。押。へ。八。重。九。重。は。御。著。く。田。塚。山。へ
 引。搦。登。り。あ。が。り。殺。し。ま。る。あ。此。の。大。を。冷。よ。り。あ。ん。又。彼。狭。七。を。い
 奴。と。山。内。の。管。領。家。憲。政。の。老。黨。は。神。原。矢。所。平。が。ひとり。子。子。

被五郎とゆふ。のこ。まじ。る。び。八。が。亡。妻。の。彼。被。五。郎。が。乳。母。あ。り。し。と。
 微。八。は。ま。つ。る。こ。の。あ。り。加。納。ま。の。の。あ。り。這。奴。の。近。曾。孫。を。て。つ。が。姨。を。破。
 殺。小。糸。を。奪。ひ。逐。電。て。且。く。假。名。川。は。溜。る。は。正。く。定。て。此。彼。を。つ。と。と。
 る。ひ。の。と。れ。が。彼。小。糸。の。當。初。の。と。微。八。と。ま。は。し。令。て。天。龍。川。の。わ。ら。う。あ。て。
 勾。引。ま。る。女。の。童。の。名。止。ひ。子。と。し。し。め。と。然。つ。と。れ。の。狭。五。郎。の。つ。が。姨。乃。
 仇。人。あ。り。小。糸。の。原。口。が。贓。物。あ。り。律。の。序。は。被。七。と。殺。又。小。糸。の。復。さ。が。な。
 要。時。の。没。為。歎。く。小。足。は。又。扇。谷。の。管。領。より。嚴。く。穿。さ。せ。ま。る。と。も。身。の。
 罪。贖。の。一。物。あ。り。の。あ。り。夜。を。た。ら。は。芝。崎。を。つ。が。ひ。お。さ。る。陣。羽。織。の。罪。あ。り。
 の。の。赦。え。と。き。秘。て。賞。錢。を。定。め。つ。彼。此。へ。令。ま。さ。れ。る。又。字。は。疑。ひ。は。
 脱。走。ま。る。の。羽。織。を。管。領。へ。進。上。して。野。の。頭。を。續。ん。の。も。つ。と。と。ひ。の。と。は。ら。
 り。示。せ。し。伍。平。太。の。轍。の。跡。の。沈。水。は。臨。む。ゆ。ゆ。と。さ。び。の。大。息。吻。れ。この。汁。

極。く。妙。る。の。つ。と。圓。塚。の。あ。り。し。と。れ。支。黨。廿。人。と。二。隊。の。つ。れ。十。人。と。管。領。の。
 兵。ま。打。扮。せ。常。ふ。麓。は。埋。伏。さ。し。一。群。あ。り。約。客。の。假。軍。兵。と。り。て。殺。馬。し。
 斬。く。約。客。を。奪。せ。ま。る。被。七。と。も。ん。と。推。さ。る。春。小。糸。の。奪。ひ。と。せ。し。細。五。郎。
 は。殺。せ。し。支。黨。二。人。を。失。ひ。あ。れ。ま。る。ふ。け。の。細。五。郎。の。と。ら。は。小。糸。の。名。告。
 め。て。彼。兵。士。の。ち。り。の。取。竊。疑。ふ。ま。さ。る。り。が。縁。由。を。問。ひ。究。め。て。從。
 小。糸。の。約。客。の。被。何。る。と。を。辨。べ。た。今。有。直。さ。ふ。と。て。也。下。不。野。系。や。へ。ら。ら。
 へ。と。早。く。以。黒。平。推。禁。め。この。と。逼。て。失。あ。る。如。此。と。流。言。を。這。奴。の。よ。
 い。疑。ふ。べ。し。の。と。れ。殺。む。一。拳。と。細。五。郎。を。後。搏。中。被。七。と。殺。小。糸。の。奪。ひ。の。
 夜。の。駈。引。軍。配。の。半。胸。が。手。裏。の。あ。り。各。位。の。い。ら。う。と。の。あ。り。隠。宅。に。溜。び。も。その。
 隠。宅。の。と。耳。を。引。よ。漸。と。ま。さ。る。と。れ。伍。平。太。の。い。ら。う。と。小。賊。亦。殺。び。て。
 二。人。と。入。り。し。偶。田。の。沈。橋。渡。ら。る。石。濱。の。か。え。ゆ。り。り。案。下。某。生。再。說。細。

五郎のその夜より十兵衛より小糸を奪ひて母屋を焼く。夕餐してふかきとて
後又忙しく背門を閉りしものあり。維と聞が十兵衛を御座し戸を引立て細五郎は
取りかかるとも。妹旦那が何と云ふや。蘇峰九は討ひてしまふ。実やん今度
風声あり。ちんちんけい只一人圓塚山は赴きて山魁を徒搏す。山寨を焼けて山賊
ホを逐きひらひとて。二旦那里の馬を傷けたるは仇と云ふ。その敵は
去てを吹疵を吹んて。嗚呼と云ひて解任は仇と云ふ。彼山魁ホハを敵の
癡者と不意を奪ひて群鳥とて争恨を合はしむ。今ふんめぬるはあやう
妻と奪り子を親と云ふ。そのつらめり。とてうらみはる。とて正着は徳れが
旦那も安てうち驚れ猛と云ふも限りあり。商人の只もを送る。本を逐入
俗に従ひ柔和ることよくあれ。後このさむいものぞや。しつろの歎をさるこ
りや。とちんちんけいのさむいやと。此二の精もひらしと酸鼻うらうらともお場と

言葉の理は迫られて細五郎は着座して嘆息し阿茶姉の教訓を仇ふら
つて。夕餐も。おのく好むところあり。只名の為人の為よ身を顧みれば
る。嗚呼ある形は仇と云ふも。阿茶あり。袂七あり。けい身は不慮のさあり
とも。活業のむくてもある。そのまぶくまむく。せとて。これの素より坊間
る。果んと云ふ。おのく。そのその。其終角より。比級又公作
おぼる。とて。おのく。この地方。小豊嶋勲解由左衛門尉平信盛と云ふ。ん
どる。元武士あり。管領に従つて。年々封疆を争ふ。その軍遂は利
あり。とて。才練馬平左衛門平塚圓塚一族。りとも。主従とて。三百騎残る。の
る。討死せり。その比件の豊嶋殿は。種をさす。三人あり。太郎三郎あり。も
敵の軍兵を生拘れば。三郎あり。の幸じて。乳母子と云ふ。本貫より。娘と
隠して。市人より。しとて。こまら。為は祖。父あり。今社。おのく。先祖ハ

名ある武士もれが血を授けたる綱五郎が坊質の馬を奪ひて推し比より
 武藝を好む。猛く勇むも腹を死因果まゆむ。然れども阿希姨の
 教訓を聞きて夢て只管血氣を早るふあまむ。向後自と愛し。此ころ休へ
 ぬ。と回答をよめ。姨且爾の十女湯と面をあら。又いかりもあつたけり秋の
 夜もが。此彼の物語をよめ。又て寝よとの鐘は驚き。十女湯の遠くおのが
 宿所へゆり。結見綱五郎のこのころが。圓塚山の麓は集まる里の社伎
 ホも附せん。巨六懐丁して彼ホを里盡知る。酒樓は聚合酒飲せ物食て。
 抱ひ暮る夜も衆皆山賊退治と祝して。藤原九が勇敢と稱讃し。その夜も
 伍平太ホが阿隅田河原のこのころ。管領の兵士は逐まてる。律の為伴と物
 ぬろと。そのと。巨六進む。大將の夢もつと。頃日扇谷の管領より。竊子
 一隊の兵士を出されて。領は穿牙鑿考のふ。このころ。彼山魅ホを搦捕る。あ

あつた。月の中旬管領より。逐もひ。神原より。犯人は荷擔して。扇
 谷の兵士を砍殺し。彼神原をぬく。逃去する。瘴者あり。ことを穿鑿せん。為毎日
 小兵士とせし。伍平太ホの身。のまの異なる。妖怪め。れ。縛らま。と。ま。は。は。
 う。鳥夜は。給。幸。して。河を渡りて。逃亡。した。彼。野。兵。の大。將。の。岩。藤。尾。乃。
 右。湯。つ。の。武。夫。あり。伍平太ホを。逐。捨。て。ぬ。ら。ん。と。い。ひ。吾。們。を。呼。ぶ。ぬ。汝。
 ホが。送。り。ま。つ。る。瘴。者。の。い。つ。る。の。ど。と。叮。嚀。小。向。進。し。う。ま。づ。大。將。の。の。を。言。ひ。
 今。逃。去。する。瘴。者。の。山。魅。ホ。を。ゆ。と。ま。せ。し。う。の。岩。藤。ゆ。時。も。あ。ま。原。未。脱。ま。て。
 ず。は。罪。人。あり。た。汝。ホ。既。に。生。拘。る。べ。ら。と。て。管。領。の。石。館。へ。引。ぶ。り。その。盜。賊。を
 捕。と。と。敷。圍。つ。主。從。一。道。蒐。て。小。賊。二。千。餘。人。を。武。の。斃。さ。す。或。の。索。を。被。れ。せ。
 山。魅。の。を。逃。て。如。法。夜。の。の。り。れ。終。て。その。往。方。ま。れ。と。岩。藤。ぬ。へ。し。と。い。ふ。送。
 懐。ち。の。い。ま。ど。う。ま。は。れ。ぬ。の。れ。小。賊。ホ。を。引。く。西。を。望。て。ゆ。り。も。ひ。た。と。吾。儕

のこのふく食んえんころもれど。被圓塚の麓まで管領家の兵士を殺せる癖
 者ぞ穿鑿せむと。いふやう。誰らとあふとらも。俄頃又風声さるること。
 舌ぞ叩て細五郎ハ吐嗟とぞと覚期のこと。多き騒がせる気色あり。外車不
 ろ。酒の果て。囁言ふ町へあがる途すが。既に思念を決つ。夜もる。二更乃
 木鼓とも。且聞が臥房へ入る。かへて。滑す。狭七と。拒れ。巨。ホッ。告ぐ。り。る。彼。風
 声ぞ。流る。び。管領より。まのび。く。穿鑿せむ。もの。ある。ふ。さ。も。あ。つ。て。も。は。れ
 ぐ。じ。み。ぐ。ろ。ろ。名。ぞ。縛。と。受。ん。と。い。ふ。も。風。声。は。驚。ぎ。ま。れ。て。ま。う。せん。ハ。今。更。は。思。慮
 ろ。な。い。知。ら。る。よ。う。と。い。ふ。び。が。新。ま。じ。隠。と。も。黒。平。ホ。ガ。所。在。と。索。探。彼。羽
 織。ぞ。う。復。て。相。駭。し。ま。を。連。与。て。ハ。滑。ひ。る。を。背。く。ふ。知。ら。る。誰。と。よ。う。い。ひ
 つ。如。く。相。成。と。ぞ。の。督。め。く。阿。總。と。そ。ろ。妻。と。い。は。れ。又。後。を。う。る。人。聖。と
 は。あ。て。こ。の。玉。環。と。十。兵。衛。と。相。縋。て。婚。姻。と。ぞ。の。び。に。さ。ら。る。の。ち。と。密。結。へ。狭。七。ハ

穿て驚嘆。某があて。つて。ま。の。び。く。穿。鑿。せ。む。の。ち。と。密。結。へ。狭。七。ハ
 黒平と。ん。が。所。在。に。ん。定。め。ら。る。あ。の。じ。程。方。考。れ。ら。る。仇。と。索。探。て。件。の。羽。織
 復と。埋。木。と。ら。る。某。が。阿。容。と。こ。の。家。を。統。ひ。り。お。ん。身。を。罪。ら。し。て。ハ。一。日。も
 存。命。せ。じ。圓。塚。の。所。在。と。追。捕。の。兵。士。を。殺。し。る。罪。ら。す。身。又。負。て。際。に。名
 着。て。出。り。お。ん。の。哥。の。黒。平。が。所。在。と。あ。り。て。彼。羽。織。と。う。復。て。管。領。へ。進。出。し。て
 ぬ。ハ。六。狭。七。が。首。ハ。刻。る。も。絶。て。恨。め。ら。れ。ど。又。彼。阿。總。ハ。新。と。り。て。妻。せ。ん。と。い。ハ
 る。と。嫌。ふ。ぬ。あ。る。程。も。誰。と。い。ふ。も。る。と。ど。く。を。身。に。推。し。た。小。糸。と。の。女。房
 あ。り。い。ぬ。比。追。捕。の。武。士。ハ。囚。に。し。て。殺。せ。ら。る。生。り。も。死。せ。ら。る。も。そ。れ。は。さ
 志。と。あ。る。り。の。を。異。妻。と。せ。ら。る。今。更。情。を。な。し。て。小。糸。が。為。し。面。る。所。死
 る。此。後。難。儀。を。推。量。す。と。某。を。死。す。と。言。察。を。竭。て。推。辞。と。も。細。五。郎。ハ。死。を
 掉。妻。あ。る。人。ハ。又。妻。と。せ。ら。る。と。い。ハ。嗚。呼。と。理。る。死。形。と。い。は。れ。ん。が。さ。

新編 忠臣蔵 巻之七

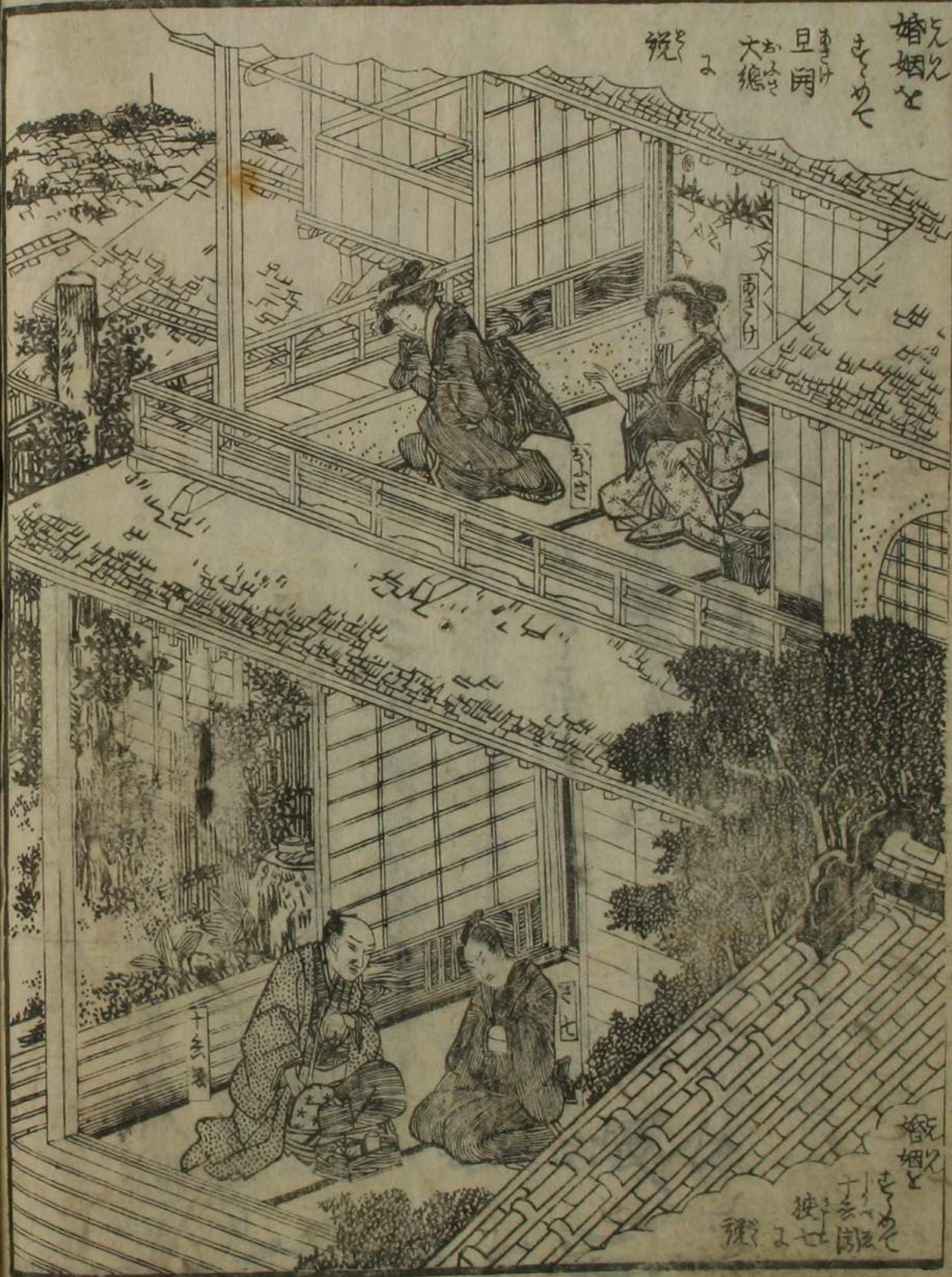
婚姻と

きくめて

旦阿

大徳

鏡



婚姻と

きくめて

旦阿

大徳

鏡

下めういし工。和な又阿徳と妻をば家と鏡より登る。阿希媛の
 安堵せむ。とまが死にわらうとも世と勢は後をば宿おの遠がト一文
 字の羽織をもて。トとびおへへんと。とらるる。とら甚思ひて阿徳とひとつ
 ろう。その報ひあは遠く。とれ又小糸あをば。とれがそそのとら大徳
 を喜よとら。あをばを正妻側室へ入る。これらのうの時耳より。和後の
 こつあをば。と。ゆや又は思ふ感て。和なが死んといへば。一旦誓。綱五郎。
 と。とら。教せんや。人を教て身罪と鏡とら。とら。その。天庭。星。拘
 へ。伍平太を放し。せと。偽。も。あ。れ。這。奴。も。又。綱。五。郎。を。悼。ら。う。先。非。を。悔。て。舊。里。へ。
 かつんとし。く。既。は。摘。ま。さ。れ。ども。管。領。へ。と。進。む。せ。と。杜。伎。本。を。送。り。て。
 阿隅田河原へ追放せ。ん。云。云。の。有。あ。れ。が。う。と。さ。う。く。伍。平。太。を。管。領。へ。送。り。て。
 づ。過。失。を。曉。り。曉。る。と。い。ふ。う。ん。と。や。と。あ。る。あ。る。あ。ら。が。づ。ら。い。て。今。そ。の。振。り。ひ。

見れ真の使者よあがり。禮とてせんまほ。きびてまふまじとらひ
くわて身を起さぬ。十兵衛且角の左やう忙しくもあてまひ使め
のつらむ。後と阿總ホは律の起と告まじ。彼ホが軟く承りておめくも
多といひ論う。十兵衛の校七を困室へ振た侍て。件のよを後まほ。校七
素よりこのて致れ。おめくも既。昨々細五郎よりいれ。よとあんが推辞
かして承りぬ。のれ且角中階やふ入る。外へ阿總を呼びて。細五郎が媒妁
去て今宵校七と婚姻とどのいせん。とあやの。と叮嚀に説示せ。阿總へこれ
受ぬと。多ひのりたよ。けり。この婚姻をゆみ引付け。いそそふ。宣甘。婚
縁を推辞づ。いひがた。たもけり。香る。既。警の延ぬ。そ。あう。ふ。幸。あ。れ。を
刺し。多。い。後。と。作。り。る。は。回。答。痛。く。且。角。へ。再。び。説。く。後。を。下。立。と。は。じ。え。
お。め。つ。ら。む。さ。不。次。の。間。わ。て。盗。竊。す。と。も。細。五。郎。へ。亮。隔。丁。と。推。角。と。且。角。が。傷。不

と素と坐。阿總へ何とさうなる。形をたせを初て。尼はあ。そののあ。が
あ。て。去。歳。う。り。母。又。養。れ。と。た。改。を。利。ら。る。言。致。後。て。婚。姻。を。推。辞。し。別
小情由あん校七を嫌て去るのや。又細五郎が媒妁を。あ。は。じ。ら。る。後。あ。て。致
と声高やう不達回。して阿總の涙を押し。努め。人の縁む。を。び。あ。ん。う。つ。を
も。あ。り。ぬ。い。ひ。る。人。は。あ。り。身。の。ゆ。き。と。さ。ふ。夫。を。嫌。ひ。媒。妁。を。嫌。へ。た。只
いひがた情由なり。と回答のあ。は。じ。は。洗。め。細。五。郎。へ。嘆。息。し。そ。い。ひ。つ。た。情
由。あ。り。る。ん。ワ。れ。も。又。い。ひ。が。た。情。由。あ。り。あ。ま。の。婚。姻。と。の。い。せん。と。あ。り。る。り。
つ。母。の。今。致。よ。ら。び。て。さ。う。い。ひ。そ。の。な。れ。が。其。の。妹。と。あ。り。ひ。は。し。て。い。ひ。が。た
このいひ。勧めが。た。ても。勧め。腹。う。ち。た。れ。と。い。ふ。う。ら。腹。う。ち。も。あ。ん。身。の。為
狭。七。が。為。の。家。の。為。情。入。の。あ。る。と。い。ふ。は。保。ぬ。婚。姻。の。強。面。も。あ。ん。恨。し。も
あ。ら。び。け。れ。ど。一。旦。物。を。い。ひ。つ。ら。む。音。信。は。伝。使。を。と。して。否。あ。あ。ん。が。有。る。り

とも被七が妻とめられ... 瘦る肆るれども里は由緒ある商人なれば... 親の被七を主人の被七... 美良子の名ひの娘はと阿希が安堵の為... 扱をゆりて阿総のあまび服... えよのぬらつたむむ野の極の井と漏る涙を袖に堰とあてや... 涙を擡ぶ涙とて涙のあま... 絶て言さるは... 綱五郎のあまび服... 多う。との早開のうら... 假髪を添へる系め... 女をゆく誘引...

被七を召て里者の宿所へ... 昔より遠げ立つて... 生盛膾の背越の鱗の鮮く... 世の被七相帯... 瞻仰て背門へ出... どの声く内より... 驚入且飲び抑おん... るは... どの声く内より... 救まる一五十を...

云早いひまけせと一ひと小草こくさうが妹父いもうとの遺言いご重おもければ。とと思おもひ共とも中なかて。旅宿りゆうしゆく小こ宿しゆくび
 妹いもうと伏ふしの奇縁き縁揚あ貴き妃ひ小町こまちも何なんううせんせん。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。
 と背せを拵しらていひひ給たまへば。小糸こいとの疑うたがひの存ぞん解げを理ことのめりて宣のたまへばも頃日このころの天あまよ
 比ひへば。男子おとこの志こころのこころももややうう。身みひひちちももああるる。面おもてのの又また伏ふし或あるは淵ふち瀬せふ
 牙みを授たまへば。身みが後ごをごももせんせん。因果いんぐわいのの縁縁の宿やどををややいいぬぬ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。
 入いててとと母ははをを懐なつへば。入いるる。狭せま七ななのの嘆なげ息いき。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。
 八やち千せんとと百ひゃく千せん遍べんむむりりとと納なむむ。身みが懐なつ胎たい月げつのの後ごにに難がたくく。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。
 必かならずししとと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。
 胸むねにに有ありり也や。無なししのの閑かんもも。母屋おほやのの門かどにに越こええ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。
 雌メス雄オスとと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。
 とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。
 とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。
 痛いたかか。湯ゆとと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。
 何なんれれもも嫉ねた妬りやうるる。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。

母屋おほやののとと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。
 今いま昔むかしハハとと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。
 胸むねにに有ありり也や。無なししのの閑かんもも。母屋おほやのの門かどにに越こええ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。
 雌メス雄オスとと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。
 とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。
 とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。
 痛いたかか。湯ゆとと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。
 何なんれれもも嫉ねた妬りやうるる。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。とと思おもひ。

糸柳春蝶奇縁巻之七終

